安全データシート

この安全データシートは以下の要件に準拠している:
JIS Z 7252:2019; JIS Z 7253:2019

発行日 16-12-2025 **改訂日** 16-12-2025 **改訂番号** 1

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 D-12

登録番号 情報なし

安全データシートの供給者の詳細

製造者
The MazWell Group Ltd.
Units 11/14-15 Ardglen
Industrial Estate,
Whitchurch, Hampshire,
RG28 7BB, United Kingdom
+44 (0)1256-893883
+44 (0)1256-893868
enquiries@themazwellgroup.com

供給者
Cosmo Trade and Service Co., Ltd.
23rd Floor, msb Tamachi, Tamachi Station Tower N, 3-1-1 Shibaura, Minato-ku, Tokyo 108-0023, Japan
TEL:03-3798-9315 / FAX：03-3798-9415
cts_embalming@cosmo-oil.co.jp
www.cosmo-trade.com

緊急連絡電話番号 +44 (0)1256 893883 (Mon- Fri 9:00 am - 4:30 pm GMT)
+81-3-3798-9315

電子メールアドレス enquiries@themazwellgroup.com

化学品の推奨用途及び使用上の制限

推奨用途 エンバーミング薬品

使用上の制限 目的のアプリケーションにのみ使用してください

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS 分類

誤えん有害性	分類できない
急性毒性(経口)	区分に該当しない
急性毒性(経皮)	区分に該当しない
急性毒性(吸入) - ガス	区分に該当しない
急性毒性(吸入) - 蒸気	分類できない
急性毒性(吸入) - 粉じん／ミスト	分類できない
皮膚腐食性／刺激性	区分 1　下位区分B
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 1
呼吸器感作性	区分 1
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない

発がん性	区分 1A
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	分類できない
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	分類できない
水生環境有害性 - 急性	区分 2
水生環境有害性 - 慢性	区分 2
オゾン層への有害性	分類できない

GHSラベル要素

注意喚起語 危険

危険有害性情報
- 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
- 吸入するとアレルギー、ぜん(喘)息又は呼吸困難を起こすおそれ
- 発がんのおそれ
- 長期継続的影響によって水生生物に毒性

注意書き
安全対策
- 使用前に取扱説明書を入手すること
- 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと
- 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること
- 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと
- 取扱い後は顔、手、露出した皮膚をよく洗うこと
- 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。
- 【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること
- 環境への放出を避けること

応急措置
- ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師の診察/手当てを受けること
- 直ちに医師に連絡すること
- 特別な処置が緊急に必要である(このラベルの応急措置についての補足指示を見よ)
- 直ちに医師に連絡すること
- 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること
- 飲み込んだ場合:口をすすぐこと。無理に吐かせないこと
- 皮膚(又は髪)に付着した場合:直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと
- 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること
- 吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること
- 直ちに医師に連絡すること
- 呼吸に関する症状が出た場合:医師に連絡すること
- 漏出物を回収すること

保管
- 施錠して保管すること

廃棄
- 内容物、容器を国際、国、都道府県、及び市町村の規則に従って廃棄すること

他の危険有害性
- 情報なし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物

化学名又は一般名	CAS番号	重量%	化審法インベントリ	化審法番号	安衛法インベントリ	安衛法番号
クロラミン T	127-65-1	10 - < 25	既存	(3)-2178,(3)-3132	既存	(3)-2178,(3)-3132
二酸化ケイ素	7631-86-9	0.6	既存	(1)-548	既存	(1)-548

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)
該当しない

毒物及び劇物取締法
該当しない

4. 応急措置

一般的なアドバイス 直ちに医師の手当てを受ける必要がある。治療を行う医師にこのSDSを示すこと。ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師の診察／手当てを受けること。

吸入した場合 空気の新鮮な場所に移すこと。呼吸が停止している場合には、人工呼吸を行うこと。直ちに医師の手当てを受けること。負傷者が本製品を飲み込んだり吸入した場合には口移し法は使わないこと。一方向弁付きポケット・マスク又は他の適切な呼吸医療装置を使用して人工呼吸を行うこと。呼吸が困難な場合には、(資格のある者が)酸素吸入を行うこと。遅発性の肺水腫が生じるおそれがある。アレルギー性呼吸器反応を起こすおそれ。皮膚に直接触れないようにすること。口対口の人工呼吸を行う際はバリアを使用すること。

皮膚に付着した場合 汚染された衣服及び靴を脱ぎ、直ちに石けん(鹸)と多量の水で洗うこと。直ちに医師の診察／手当てを受けること。アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。

眼に入った場合 直ちに少なくとも15分間まぶた(瞼)の裏側まで多量の水で洗うこと。洗っている間は眼を大きく広げたままにすること。受傷部をこすらないこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師の診察／手当てを受けること。

飲み込んだ場合 無理に吐かせないこと。口をすすぐこと。意識のない者には、何も口から与えてはならない。直ちに医師の診察／手当てを受けること。アレルギー性反応を起こすおそれ。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状 灼熱感。発赤。失明を引き起こすおそれがある。咳及び／又は喘鳴。眼の発赤および流涙を引き起こすおそれがある。吸入するとアレルギー、ぜん(喘)息又は呼吸困難を起こすおそれ。掻痒感。発疹。じんま疹。アレルギー性反応の症状には、発疹、掻痒感、腫脹、呼吸困難、手及び足の刺すような痛み、めまい、意識もうろう、胸痛、筋肉痛又は潮紅が含まれる場合がある。

応急措置をする者の保護に必要な注意事項 医療者に物質の関与を伝え、自身の保護及び汚染の拡大を防止するための措置を講じること。皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。皮膚に直接触れないようにすること。口対口の人工呼吸を行う際はバリアを使用すること。指定された個人用保護具を着用すること。詳細については項目8を参照。

医師に対する特別な注意事項 この製品は腐食性物質である。胃洗浄の使用又は嘔吐は禁忌である。胃穿孔又は食道穿孔がないか調べること。化学的解毒薬を与えないこと。声門の浮腫により窒息が生じるおそれがある。湿性ラ音、泡状の痰及び高脈圧を伴う著しい血圧低下が発生する場合がある。過敏な人に感作を引き起こすおそれがある。症状に応じて治療すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤 現地の状況及び周囲環境に適した消火方法を用いること。

使ってはならない消火剤	情報なし。
特有の危険有害性	本製品は眼、皮膚、及び粘膜の薬傷を引き起こす。熱分解すると刺激性のガス及び蒸気を放出することがある。製品は感作性物質である、又は感作性物質を含む。吸入により感作を引き起こすことがある。
爆発性	爆発性はないと考えられる。
特有の消火方法	提供された情報に基づき知見なし。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	消火を行う者は自給式呼吸器及び消火活動用の完全装備を着用しなければならない。個人用保護具を使用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	注意！ 腐食性物質。皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。十分換気されているか確認すること。指定された個人用保護具を着用すること。人員を安全な区域に退避させること。人員を漏出／漏えい(洩)の風上に遠ざけること。
緊急対応を行う者のための保護具	項目8で推奨されている個人用保護具を着用すること。
環境に対する注意事項	安全に対処できるならば、それ以上の漏えい(洩)又は漏出を防ぐこと。環境中に放出してはならない。表土／下層土に侵入させないようにすること。製品が排水路に入らないようにすること。
封じ込め方法	安全に対処できるならば、それ以上の漏えい(洩)又は漏出を防ぐこと。
浄化方法	回収して適切に表示された容器に移すこと。
二次災害の防止策	汚染された物体及び区域を環境規則に従って十分に浄化すること。
その他の情報	項目7及び項目8に記載されている保護措置を参照すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

安全取扱注意事項	産業衛生安全対策規範に従って取り扱うこと。皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。換気が不十分な場合、適切な呼吸用保護具を着用する。製品の取扱いを閉鎖系内に限定するか適切な排気式換気を設けること。この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。保護眼鏡、不浸透性の保護衣、手袋及び／又は長靴を着用すること。
衛生対策	皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。適切な手袋及び保護眼鏡／保護面を着用すること。この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。汚染された衣類及び手袋は脱ぎ、再使用する前に内側を含めて洗濯すること。汚染された作業衣は作業場から出さないこと。機器、作業区域及び衣類を定期的にクリーニングすることが推奨される。休憩前及び製品の取扱い直後に手を洗うこと。

保管

安全な保管条件	容器を密閉して乾燥した涼しく換気のよい場所に保管すること。湿気を遮断すること。施錠して保管すること。子供の手の届かない場所に保管すること。他の物質から隔離して保管すること。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度	この製品は、供給されたままの状態なら、地域独自の規制団体が制定した職業被ばく限界が設定

された危険有害物質を一切含んでいない。

生物学的許容値 この製品は、供給されたままの状態なら、地域独自の規制団体が制定した生物学的制限値が設定された危険有害物質を一切含んでいない

設備対策 シャワー
洗眼場
換気システム。

環境ばく露防止 情報なし。

保護具

呼吸用保護具 インダストリアル・ハイジニストに相談のうえ、この物質の使用者独自の用途に対する適切な呼吸用保護具を決定すること。適切な呼吸用保護具を着用すること。

眼及び／又は顔面の保護具 顔面保護シールド。密封性の高い安全ゴーグル。適切な眼保護具を使用すること。

手の保護具 適切な手袋を着用すること。不浸透性手袋。

皮膚及び身体の保護具 適切な保護衣を着用すること。耐薬品性エプロン。長袖の衣類。不浸透性衣類。不浸透性の保護長靴。

9. 物理的及び化学的性質

物理的及び化学的性質に関する情報

外観	結晶性粉末
物理状態	固体
色	オフホワイト～白
臭い	かすかな塩素臭
臭いのしきい値	情報なし

特性	**値**	**備考 • 方法**
融点／凝固点		データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲		データなし
可燃性		データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界		
爆発又は可燃の上限界		データなし
爆発又は可燃の下限界		データなし
引火点		データなし
蒸発速度		データなし
自然発火点		データなし
分解温度		データなし
SADT (°C)		データなし
pH		データなし
粘度		
動粘性率		データなし
動的粘度		データなし
水への溶解度	水に可溶	
溶解度		データなし
n－オクタノール／水分配係数(log値)		データなし
蒸気圧		データなし
密度及び／又は相対密度		
相対密度		データなし
蒸気濃度		データなし
かさ密度	1120 kg/m^3	
相対ガス密度	> 1	
粒子特性		

粒径	該当しない
粒径分布	該当しない

その他の情報

分子量	情報なし
VOC含有率	4%
軟化点	情報なし

物理的危険性クラスに関連するデータ

爆発物	衝撃に対する感受性
爆発性	爆発性はないと考えられる
酸化性	酸化剤として分類する基準を満たさない

10:安定性及び反応性

反応性	通常の使用条件下ではない。
化学的安定性	通常の条件下で安定。
危険有害反応可能性	通常の条件下で安定。
避けるべき条件	長期間にわたる空気又は湿気へのばく露。
混触危険物質	酸、塩基、酸化剤。
危険有害な分解生成物	提供された情報に基づき知見なし。

爆発データ

静電放電に対する感度	なし。
機械的衝撃に対する感度	なし。

11. 有害性情報

製品情報

経口	この化学物質又は混合物の特定試験データはない。薬傷を引き起こす。(成分に基づく)。飲み込むと消化管及び気道の上部に薬傷を引き起こす。暗色血の嘔吐及び下痢を伴う口及び胃内部の重篤な灼熱痛のおそれ。血圧低下のおそれ。口の周囲に褐色がかった又は黄色がかった変色が見られる場合がある。喉の腫脹による息切れ及び窒息のおそれ。飲み込むと肺損傷を引き起こすおそれがある。飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。「吸入」の項目に記載されている追加的影響を生じるおそれ。
吸入	この化学物質又は混合物の特定試験データはない。吸入すると腐食性である。(成分に基づく)。腐食性のヒューム／ガスを吸入すると、数時間にわたる咳、窒息、頭痛、めまい及び脱力感のおそれ。胸苦しさ、息切れ、皮膚の青変、血圧低下、及び心拍数の増加を伴う肺水腫のおそれ。吸入された腐食性物質は毒性浮腫を引き起こす可能性がある。肺水腫は生命に危険である可能性がある。過敏な人に感作を引き起こすおそれがある。
皮膚接触	この化学物質又は混合物の特定試験データはない。腐食性。(成分に基づく)。薬傷を引き起こす。反復又は長期にわたるばく露による皮膚への接触は、敏感な人にアレルギー性反応を生じるおそれがある。
眼接触	この化学物質又は混合物の特定試験データはない。重篤な眼の損傷。(成分に基づく)。眼に対して腐食性であり失明を含む重篤な損傷を生じるおそれがある。失明を含む非可逆性の損傷を引き起こすおそれがある。

物理的、化学的、及び毒性学的特性に関係する症状

症状 灼熱感。発赤。失明を引き起こすおそれがある。咳及び／又は喘鳴。眼の発赤および流涙を引き起こすおそれがある。吸入するとアレルギー、ぜん(喘)息又は呼吸困難を起こすおそれ。掻痒感。発疹。じんま疹。アレルギー性反応の症状には、発疹、掻痒感、腫脹、呼吸困難、手及び足の刺すような痛み、めまい、意識もうろう、胸痛、筋肉痛又は潮紅が含まれる場合がある。

急性毒性 利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。分類できない。

毒性の数値尺度
混合物のATE値は下記のとおり算出されている:

ATEmix(経口)	5,701.20 mg/kg
ATEmix(経皮)	12,329.40 mg/kg

毒性の数値尺度 - 成分情報

化学名又は一般名	経口LD50	経皮LD50	吸入 LC50
クロラミン T	= 935 mg/kg (Rat)	> 2020 mg/kg (Rabbit)	> 275 mg/m³ (Rat) 4 h
二酸化ケイ素	= 7900 mg/kg (Rat)	> 5000 mg/kg (Rabbit)	> 58.8 mg/L (Rat) 4 h

略語及び頭文字
Rat: ラット
Rabbit

短期的及び長期的ばく露による直後の影響と遅発性の影響及び慢性的影響

皮膚腐食性／刺激性 成分に対して利用可能なデータに基づく分類。重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 成分に対して利用可能なデータに基づく分類。重篤な眼の損傷。薬傷を引き起こす。

呼吸器感作性又は皮膚感作性 吸入するとアレルギー、ぜん(喘)息又は呼吸困難を起こすおそれ。

生殖細胞変異原性 利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。分類できない。

発がん性 発がん性が知られている又は発がん性が疑われる物質を含んでいる。成分に対して利用可能なデータに基づく分類。発がんのおそれ。

下表は各機関が何らかの成分を発がん性として記載しているかを示す。

化学名又は一般名	日本政府によるGHS分類	日本産業衛生学会	IARC
二酸化ケイ素	発がん性1A		グループ3ーヒトの発がん性に関して分類できない物質

生殖毒性 利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。分類できない。

特定標的臓器毒性(単回ばく露) 利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。分類できない。

特定標的臓器毒性(反復ばく露) 利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。分類できない。

誤えん有害性 利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性 長期継続的影響によって水生生物に毒性。

水生環境毒性

成分情報

化学名又は一般名	魚類	甲殻類	藻類／水生植物	微生物に対する毒性

クロラミン T	LC50: =31mg/L (96h, Poecilia reticulata) LC50: 20.2 - 26.2mg/L (96h, Oncorhynchus mykiss) LC50: 1.63 - 2.19mg/L (96h, Oncorhynchus mykiss) LC50: 6.52 - 7.51mg/L (96h, Pimephales promelas)	EC50: =4.5mg/L (48h, Daphnia magna)	-	-
二酸化ケイ素	LC50: =5000mg/L (96h, Brachydanio rerio)	EC50: =7600mg/L (48h, Ceriodaphnia dubia)	EC50: =440mg/L (72h, Pseudokirchneriella subcapitata)	-

残留性・分解性 情報なし。

生体蓄積性

化学名又は一般名	分配係数	生物濃縮係数(BCF)	栄養蓄積係数(TMF)
クロラミン T	-1.3	-	-

土壌中の移動性 情報なし。

オゾン層への有害性 分類できない。利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。

他の有害影響 情報なし。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 現地の規則に従って廃棄すること。環境法律に従って廃棄物を廃棄すること。

汚染容器及び包装 空容器を再利用しないこと。

14. 輸送上の注意

国際規制

IMDG

国連番号又はID番号 UN1759
品名(国連輸送名) その他の腐食性物質(固体)(他の危険性を有しないもの)
専門名 クロラミン T
国連分類(輸送における危険有害性クラス) 8
容器等級 III
海洋汚染物質に該当するかの特定 NP
特別条項 223, 274
EmSコード F-A S-B
説明 UN1759, その他の腐食性物質(固体)(他の危険性を有しないもの) (クロラミン T), 8, III

ADR

国連番号又はID番号 UN1759
品名(国連輸送名) その他の腐食性物質(固体)(他の危険性を有しないもの)
説明 UN1759, その他の腐食性物質(固体)(他の危険性を有しないもの) (クロラミン T), 8, III, (E)

国連分類(輸送における危険有害性クラス) 8
容器等級 III
海洋汚染物質 該当しない
ERG コード 8L
特別条項 274

IATA
国連番号又はID番号 UN1759
品名(国連輸送名) その他の腐食性物質(固体)(他の危険性を有しないもの)
IATA専門名 クロラミン T
国連分類(輸送における危険有害性クラス) 8
容器等級 III
海洋汚染物質 該当しない
特別条項 A3, A803
ERG コード 8L
説明 UN1759, その他の腐食性物質(固体)(他の危険性を有しないもの) (クロラミン T), 8, III

国内規則
項目15を参照。消防法、毒劇法、高圧ガス保安法、船舶安全法、航空法に該当する場合はそれぞれの規定に従う。

日本
国連番号又はID番号 UN1759
品名(国連輸送名) その他の腐食性物質(固体)(他の危険性を有しないもの)
説明 UN1759, その他の腐食性物質(固体)(他の危険性を有しないもの) (クロラミン T), 8, III
国連分類(輸送における危険有害性クラス) 8
容器等級 III
環境有害性 該当しない

15. 適用法令

国内規制
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR-SDS)
該当しない

労働安全衛生法

通知対象物質・リスクアセスメント対象物質
法第57条の2、施行令第18条の2、及び法第57条の3

告示名称	含有量%(合計)	施行日
結晶質シリカ	0.60	

表示対象物質
第57 条第1項施行令第18条

告示名称	含有量%(合計)	施行日
結晶質シリカ	0.60	

がん原性物質
労働安全衛生規則第577条の2第3項に基づく厚生労働大臣告示

化学名又は一般名	CAS番号
二酸化ケイ素	7631-86-9

毒物及び劇物取締法
該当しない

消防法
該当しない

化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律(化審法)
法第2条 第2項、第3項、第4項、第5項、第8項
該当しない

船舶安全法
詳細については項目14を参照
航空法
詳細については項目14を参照
海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律
該当しない

国際規制

残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約 該当しない

ロッテルダム条約 該当しない

国際インベントリー
インベントリー準拠状況については供給者まで問い合わせること

16. その他の情報

発行日 16-12-2025

改訂日 16-12-2025

改訂記録 第1版。

安全データシートで使用されている略語及び頭文字のキー又は凡例
リストにはこの製品に適用されない警句も含まれている可能性がある

ACGIH	米国産業衛生専門家会議
ADN	内陸水路による危険物の国際輸送に関する協定(欧州)
ADR	道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定(欧州)
AIIC	オーストラリア既存工業化学物質インベントリ
ATE	急性毒性推定値
ASTM	米国材料試験協会
bar	作業場における化合物の生物学的基準値
BAT	職業ばく露の生物学的許容値
BEL	生物学的許容値
bw	体重
天井値	最大限界値
CMR	発がん性物質、変異原性物質、生殖毒性物質
DOT	運輸省(米国)
DSL	国内物質リスト(カナダ)
EmS	非常措置指針
化審法インベントリ	既存及び新規化学物質(日本)
EPA	米国環境保護庁(Environmental Protection Agency)
GHS	世界調和システム
IARC	国際がん研究機関
IATA	国際航空輸送協会
IBC	危険化学薬品のばら積みの運送のための船舶の構造及び設備に関する国際規則

ICAO	国際民間航空機関
IECSC	中国現有化学物質名簿
IMDG	国際海上危険物
IMO	国際海事機関
安衛法インベントリ	労働安全衛生法(日本)
ISO	国際標準化機構
KECI	韓国既存化学物質インベントリー
LC50	試験集団の50%に対する致死濃度
LD50	試験集団の50%に対する致死量(半数致死量)
MARPOL	船舶による汚染防止のための国際条約
他に品名が明示されているものを除く	他に品名が明示されていないもの
NOAEC	無毒性量
NOAEL	無毒性量
NOELR	無影響負荷率
NZIoC	ニュージーランド化学物質インベントリー
OECD	経済協力開発機構
OEL	職業ばく露限度
PBT	残留性、生物蓄積性、毒性物質
PICCS	フィリピン化学品・化学物質インベントリー
PMT	残留性、移動性、毒性
PPE	保護具
PRTR	化学物質排出把握管理促進法
QSAR	定量的構造活性相関
RID	鉄道による危険物の国際輸送に関する規則(欧州)
SADT	自己加速分解温度
SAR	構造活性相関
SDS	安全データシート
SL	許容付着量
STEL	短時間ばく露限度
STOT RE	特定標的臓器毒性 - 反復ばく露ロ
STOT SE	特定標的臓器毒性 - 単回ばく露
TCSI	台湾既存化学物質インベントリー
TDG	危険物輸送法及び規則(カナダ)
TSCA	有害物質規制法(米国)
TWA	時間加重平均
UN	国際連合
VOC	揮発性有機化合物
vPvB	高残留性、高生物蓄積性
vPvM	高残留性、高移動性
As	アレルギーを引き起こす物質
DS	皮膚感作性物質
Ot	聴力の障害をもたらすおそれがある
pOt	聴覚毒性物質 - 聴覚障害を引きおこすおそれのある物質
PS	光増感剤
RS	呼吸器感作性物質
S	感作性物質
poS	感作性物質 - 職業性喘息を引きおこすおそれ
Sa	単純窒息剤
Sd	経皮吸収
pSd	皮膚吸収 - 皮膚から吸収されるおそれ
Sdv	皮膚吸収 - 取消
Sk	経皮指標
dSk	経皮指標 - 皮膚吸収の危険性
pSk	経皮指標 - 皮膚吸収の可能性

本SDSの編集に使用した主要参考文献及びデータ源

米国環境保護庁ChemViewデータベース
欧州化学品局
欧州食品安全機関(EFSA)
米国環境保護庁(Environmental Protection Agency)
急性ばく露ガイドラインレベル(AEGL)
米国環境保護庁、連邦殺虫剤、殺菌剤、殺鼠剤法
米国環境保護庁高生産量化学物質
フードリサーチジャーナル (Food Research Journal)
危険有害性物質データベース
国際統一化学情報データベース(IUCLID)
日本製品評価技術基盤機構(National Institute of Technology and Evaluation, NITE)
オーストラリア国家工業化学品届出審査機構(NICNAS)
NIOSH(米国労働安全衛生研究所)
米国医学図書館ChemID Plus(NLM CIP)
米国国家毒性プログラム(NTP)
ニュージーランド化学物質分類・情報データベース(CCID)
国際経済協力開発機構(International Organization for Economic Co-operation and Development, OECD)の環境、保健及び安全に関する出版物
国際経済協力開発機構(International Organization for Economic Co-operation and Development, OECD)高生産量化学物質プログラム
国際経済協力開発機構(International Organization for Economic Co-operation and Development, OECD)スクリーニング情報データセット
国際連合世界保健機関(World Health Organization, WHO)

免責事項

この安全データシートは、JIS Z 7253:2019 に準拠している。このSDSに記載されている内容は、発行日時点の知見、情報に基づき正確を期したものです。ここに記載されている情報は当該製品の安全な取扱い、使用、加工処理、保管、運搬、廃棄、漏えい(洩)時の処理など指針とすることのみを目的としたものであり、いかなる保証をするものではなく、また品質仕様ではありません。本文中に明記されている場合を除き、他の何らかの材料と組み合わせて使用した場合、又は何らかのプロセスに使用した場合には、有効でなくなる場合があります。

安全データシートのおわり